

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2024.5.30 発行

vol.137

2025年に開学
30周年を迎えます



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

CONTENTS

vol.137 May 2024

03

特集

令和6年度 国際医療福祉大学入学式

式辞 高木邦格理事長
大田原キャンパス／成田キャンパス／東京赤坂キャンパス／
小田原キャンパス／大川キャンパス



05

塩谷看護専門学校 卒業式・入学式／キャンパスイベントのご案内

06

特集

令和5年度 国際医療福祉大学学位記授与式

大田原キャンパス／成田キャンパス／東京赤坂キャンパス／
小田原キャンパス／大川キャンパス／大学院生総代 大学院長賞
理事長賞、学長賞・卒業生総代



10

新任のごあいさつ

13

令和6年度 学部・大学院・特別専攻科 新入生概要

14

施設インフォメーション

国際医療福祉大学成田病院／国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学三田病院／
国際医療福祉大学熱海病院／国際医療福祉大学市川病院／国際医療福祉大学塩谷病院／
山王病院

16

海外保健福祉事情

2023年度冬季実施

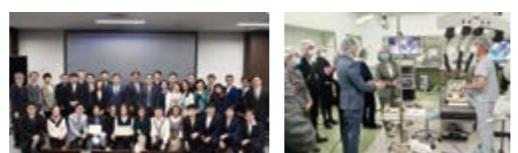
18

2023年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

19

トピックス

日越外交関係樹立50周年記念事業
特別プログラム実施



20

トピックス

能登半島地震 本学大学院災害医療分野からもDMAT等派遣

2023年度 国家資格試験結果

令和6年度 国際医療福祉大学入学式 式辞

2024年4月7日 成田キャンパス入学式および成田薬学部・公衆衛生専門職大学院開設式より
国際医療福祉大学成田病院国際ホールにて

高木 邦格
理事長
学校法人国際医療福祉大学



国際医療福祉大学成田キャンパス入学式および成田薬学部・公衆衛生専門職大学院開設式に多数のご来賓の皆様にご来臨賜り、誠にありがとうございます。本日は薬学部開設式でもございますので、日本の製薬業界の幹部の方々、薬剤関係の皆様にもご臨席賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

成田キャンパスでは本日、学部・大学院あわせて760人の新入生の方々をお迎えいたしました。本学の5つのキャンパスをすべてあわせますと、2639人の新入生にご入学いただいたことになります。新入生の皆様、保護者の皆様、改めてご入学おめでとうございます。

本学は1995年、医師以外の医療福祉専門職の地位向上とアジアの医療福祉分野のリーダーの養成をめざし、日本初の医療福祉の総合大学として栃木県大田原市に開学いたしました。今でこそ医療福祉系総合大学は増えましたが、当時は医療福祉教育といえば専門学校が中心だったため、本学の人気は高まり、全国から多くの優秀な学生が集まりました。その第一期・二期生が現在、医療福祉分野の中核として社会で活躍しています。開学以降、本学の学生の国家試験合格率は常にトップクラスを維持して

おり、卒業生たちの各分野での活躍もあって、戦後の開学で成功した有数の大学として評価されるようになりました。そうしたなかで、チーム医療のリーダーとなる医師も養成したい、旧態依然とした古いカリキュラムで行われている日本の医学教育をドラスティックに変えたいと思い立ち、さまざまな壁が立ちはかるなかで医学部開設にこぎつけました。医学部新設にあたり、内閣府、厚生労働省、文部科学省の3省合意のなかで「国際医療拠点としてふさわしい留学生の割合」

「アジアの医療福祉分野のリーダーの養成」「日本の医薬品や医療機器システムのアジアとの共通化」「アジアの医療政策のリーダーを養成する公衆衛生専門職大学院設置」などの宿題が示されました。これらは私自身が考えていたことでもあったため、本学医学部はこれに応え、開設以来、1学年140人中20人が留学生という日本の医学部では類を見ない国際色豊かな環境で、先駆的なカリキュラムによる革新的医学教育を実践してまいりました。本学医学部では受験票を出した学生はほぼ全員が医師国家試験を受験しておりますが、既に卒業した第一期・二期生の合格率は99.2%で、いずれも全国82の医学部中2位という結果を収めています。

こうした医学部開設をめぐる経緯のなかで、このたび成田薬学部と公衆衛生専門職大学院の開設に至りました。18歳人口の減少もあり、新設の薬学部には入学者が集まるか心配しましたが、非常に優秀な学生が数多く集まり安心しております。成田薬学部としては、病院に勤務する薬剤師や薬学部

の教員・研究者が不足するなか、病院薬剤師や医療機関に勤める研究者などを養成することが大きな目的です。また、アジア全体における健康構想を見据え、国際的な薬の供給や許認可、共通の治験等の推進について考えていく薬剤師を養成いたします。公衆衛生専門職大学院については、国民皆保険制度や介護保険制度をはじめとする日本のきめ細やかな医療制度を礎に、アジア全体の医療政策を考え、主導できるリーダーを養成してまいります。

このたびの成田薬学部と公衆衛生専門職大学院の開設をもって、成田キャンパスが、アジアの医療福祉分野のリーダーを育していく基盤はできたのではないかと安堵しております。今後は、学長、大学院長を中心に、先生方、そして新入生の皆様が成田キャンパスのこれから研究、教育、臨床の基礎固めに取り組んでいっていただければ幸いです。

新入生の皆様にとって医学や医療の知識はもちろん、文学や音楽などから得られる教養、趣味・スポーツ・友人などから得られるさまざまな感情に触れ、患者様や弱者への共感、そして愛情のベースとなる人間性を養うことが、医療人として生きていく上で最も重要です。そうした人間性を磨きながら、有意義な学生生活を送ってほしいと思います。

皆様が学生生活を十分に楽しみ、卒業時には全員が国家試験に合格して笑顔で卒業できることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。新入生の皆様、ご入学本当におめでとうございます。



令和6年度 国際医療福祉大学入学式

大田原キャンパス

大田原キャンパスの入学式が4月4日、那須アスリーナで行われ、学部835人、大学院28人の新入生が新たな一步を踏み出した。

式典では鈴木康裕学長、矢富裕大学院長が「失敗をおそれず、成功に溺れない。これができるかどうかでこれからが決まると言つて過言ではない」と激励。これに対し学

部新入生を代表して言語聴覚学科の須田萌花さんは「さまざまな壁が立ちはだかると思うが、助け合い切磋琢磨する」と決意を表明。大学院新入生代表の石井伶旺さんも「本学の理念『共に生きる社会』の実現に貢献できるよう自己研鑽する」と誓った。

(入試広報室 大塚順一)



●須田萌花さん

成田キャンパス

4月7日に開催された、入学式では医学部、成田看護学部、成田保健医療学部、成田薬学部、臨床工学特別専攻科、介護福祉特別専攻科、大学院の計760名の新入生を迎えた。成田キャンパスは2024年度成田薬学部を開設し、4学部8学科2専攻科の体制となった。また、大学院には新たに公衆衛生専門職大学院が加わった。

式典では高木邦格理事長、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長が式辞を述べた。新入生を代表し、常世田なづなさん(成田薬学部/表紙写真掲載)は「医療福祉のプロフェッショナルをめざし、高度な知識や技能を修得すべく勉学に励み、新たなことに挑戦し続ける」、ユツオ ツエジン ワンチェクさん(医学部奨学生・ブータン)は「社会に貢献できる医師になる夢を達成するために学び、成長したい」、長谷川数馬さん(大学院 医学研究科 博士課程専攻)は「大学院でのさらなる知識の探究と研究を行う」とそれぞれ決意を語った。



●ユツオ ツエジン ワンチェクさん
(医学部奨学生・ブータン)

小田原キャンパス

小田原キャンパスの入学式が4月5日に城内校舎で行われ、小田原保健医療学部、小田原・熱海キャンパス大学院の新入生計225人が入学した。

式典では、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長が式辞を述べられ、来賓を代表して鳥海義文小田原副市長より祝辞をいただいた。新入生誓いの言葉では、作業療法学科の鈴木健生さん、大学院新入生であり作業療法学科の教員でもある甲本夏穂助教が共に決意を語った。

この日は、小雨が降りしきるあいにくの天気となったが、近隣の小田原城址公園の満開の桜が新入生たちを祝福するかのように咲き誇っていた。



●緊張した面持ちで式典に臨む新入生たち

(総務課 下村達典)

大川キャンパス

大川キャンパスでは4月3日、福岡保健医療学部に212人、福岡薬学部に127人、大学院に32人を迎えて、入学式を行った。式典では、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長、高木邦格理事長の式辞に続いて、倉重良一大川市長ほか来賓の方々より祝辞をいただいた。学部新入生を代表して誓いのことばを述べたのは、医学検査学科の首藤凜さん。「大学への入学がかなった今、大学でさまざまな活動や取り組みができる新生活を思うと、大きな希望と期待で胸がいっぱいです。努力を惜しむことなく、意義ある大学生活を送りたい」と決意を述べた。



(広報 帆足リエ)

東京赤坂キャンパス

東京赤坂キャンパスで4月5日、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部(心理学科65人、医療マネジメント学科50人)、大学院(博士課程、修士課程、専門職学位課程)297人の新入生を迎えて、入学式が行われた。

鈴木康裕学長、矢富裕大学院長の式辞、来賓である山王病院・藤井知行病院長の祝辞に続き、学部新入生を代表して心理学科の渡邊佑伊さんは「幅広い知識を身に付け、それぞれの大きな夢に向かい自ら新しいことに挑戦していきます」、大学院生代表のアルアリアーサーらるびさん(医学研究科医学専攻)は「問題意識を持った大学院の仲間とともに研究活動においてよりよい社会を作るために専門性をより一層高めるよう努めます」と決意を語った。



●渡邊佑伊さん

卒業式

塩谷看護専門学校は3月5日、本校講堂で卒業式を執り行った。国際医療福祉大学の鈴木康裕学長の式辞をいただき、37人の新たな門出を祝った。

式典では、須田康文学校長が卒業生に卒業証書を手渡し、「さまざまな経験を通してこれまでに学んだ知識を知恵に変え、聞く力・話す力・書く力を駆使して社会に貢献してください」と、はなむけの言葉を贈った。

その後、卒業生の代表として蘇武美咲さんが「不慣れな援助を受け入れ貴重な学びの機会を与えてくださった患者様、そのご家族の皆様、私たちの看護師になるという意志を最後まで支え、真摯に向き合ってくださった先生方、愛情をもって支えてくれた家族に、この場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います」と答辞を述べた。

卒業生は気持ちを新たに、看護の道の第一歩を踏み出した。卒業生の更なる飛躍と今後の活躍を教職員一同期待している。



●卒業証書を授与される井川愛梨さん ●答辞を述べる蘇武美咲さん

塩谷看護専門学校

入学式

4月8日、本校講堂で入学式を執り行い、新たに40人が入学した。

式では、須田康文学校長が「皆さん一人ひとりが、在校生、教職員、そしてご家族を含めたチームの一員です。3年間の学業を遂行し、一緒に卒業する、そして全員で国家試験に合格するというのが私たちの共通の目標です。目標に向かってチーム一丸となって、力強く歩んでいきましょう」と激励の言葉を贈った。

続いて、在校生の代表として、3年生の岩波怜さんが「歓迎のことば」として「本校での学びや、仲間・患者さんとの出会いを通して得た経験は、看護学生としてだけでなく、一人の人として大きく成長させてくれると思います。皆様のこれからのお校生活が有意義なものになることをお祈りいたします」と述べた。これを受けて、新入生代表の赤羽楓さんが「誓いのことば」として「私たち新入生40人は、学校での授業を通じ、指導してくださる先生方や先輩方への感謝の気持ちを忘れず取り組んでいきます。地域社会に貢献するチームの一員になるために、日々精進し続けることを決意します」と述べた。

学生一人ひとりに寄り添い、すべての学生にとってより良い成長の一年になるよう、教職員一同、全力で取り組んでいきたい。

(事務部 田島鮎子)



キャンパスイベントのご案内

2024年6月から8月に各キャンパスで予定のイベント日程をお知らせします。開催日程の変更や中止の可能性がございます。最新の情報は本学ホームページをご確認ください。

▶オープンキャンパス

大田原キャンパス	6/9(日)	7/28(日)	7/31(水)	8/10(土)	8/11(日)
成田キャンパス	医学部以外 6/9(日)	8/4(日)	8/18(日)	医学部 8/25(日)	8/11(日)
東京赤坂キャンパス	6/9(日)	7/14(日)	8/4(日)	8/25(日)	
小田原キャンパス	6/2(日)	6/22(土)	8/4(日)	8/11(日)	8/18(日)
大川キャンパス	7/7(日)	8/3(土)	8/18(日)		
大学院	7/7(日)	オンライン			

▶各種説明会

大田原キャンパス	6/1(土) 薬学部 山形会場	6/2(日) 全学部 盛岡会場・小山会場	6/15(土) 全学部 いわき会場 薬学部 前橋会場
	6/16(月) 全学部 長野会場	6/22(土) 全学部 郡山会場・高崎会場	7/7(日) 全学部 仙台会場
大川キャンパス	7/13(土)・14(日) 学科別説明会		
大田原・成田合同説明会	7/14(日) 医学部		
	6/16(日) 薬学部・医学検査学科 会場: 東京赤坂キャンパス	7/7(日) 大学説明会 会場: 水戸	

国際医療福祉大学ホームページ
<https://www.iuhw.ac.jp/oc/>



令和5年度 国際医療福祉大学学位記授与式

大学院生総代 大学院長賞

**大田原
キャンパス**



●鈴木康裕学長より学位記を手渡される齋藤明日香さん

大田原キャンパスの学位記授与式が3月11日に行われ、学部生788人、大学院修了生39人に学位記が授与された。

鈴木康裕学長は式辞で、「夢を広く大きく持ちながら新しい環境に果敢に対応して、『勝ち組』として試練を乗り越えていただきたい」とメッセージを述べた。矢富裕大学院長、高木邦裕理事長の式辞の後、来賓の相馬憲一大田原市長、岩佐景一郎栃木県保健福祉部長、下野新聞社岸本卓也取締役会長より祝辞をいただいた。

学部生総代の齋藤明日香さん（視機能療法学科）が「チーム医療の中でそれぞれの専門性を十二分に発揮し、社会の期待に応えることができるよう自己研鑽に励んでまいります」、大学院修了生総代の手塚千裕さん（博士課程・薬学研究科）が「修了生一同、医療・福祉の各分野において更なる発展に貢献できるよう、今後も精進してまいります」と謝辞を述べた。

（総務課 深澤望）

**成田
キャンパス**



●鈴木康裕学長式辞

成田キャンパスの学位記授与式が3月9日、国際医療福祉大学成田病院国際ホールにて執り行われた。

今年度は成田保健医療学部放射線・情報科学科一期生が卒業となり、医学部131名、成田看護学部107名、成田保健医療学部273名、臨床工学特別専攻科10名、大学院博士課程12名、修士課程24名の計557名に学位記が授与された。

鈴木学長は式辞で「夢を広く大きく持ち、新しい環境に果敢に対応し困難を乗り越えてください」とエールを送った。

謝辞では、船渡健斗さん（学部生代表）が「医療界の発展に寄与していきたい」、ミヤンマー出身のニンブインアンさん（奨学生代表）が「世界の医学に貢献したい」、竹下友一郎さん（修了生代表）が「臨床力、研究力、人間力を今後も高めていきたい」とそれぞれに抱負を述べた。

（広報 城貴弘）



●謝辞を述べる吉崎彩乃さん

**東京赤坂
キャンパス**



●校歌を斉唱する卒業生

東京赤坂キャンパスで3月8日、令和5年度学位記授与式が執り行われた。赤坂心理・医療福祉マネジメント学部生113名（心理学科58名、医療マネジメント学科55名）と大学院修了生225名（博士課程23名・修士課程202名）を代表して、学部総代の飯村庸子さんと、大学院総代の山浦礼子さんにそれぞれ学位記が手渡された。

続いて、学長賞、大学院長賞が発表された後、鈴木学長、矢富裕大学院長の式辞が述べられ、来賓の医療法人財団順和会 赤坂山王メディカルセンター青木大輔院長より祝辞をいただいた。

最後に医療マネジメント学科の吉崎彩乃さん、医学研究科医学専攻の山浦礼子さんが謝辞を述べ閉会となつた。（事務部 並木祐介）

**小田原
キャンパス**



●大川市長賞受賞の斎藤英恵さんと倉重良一・大川市長

小田原保健医療学部・大学院の学位記授与式が3月8日、守屋輝彦市長、国立病院機構箱根病院の今井富裕院長らを招いて挙行され、鈴木康裕学長から学部生192人に、矢富裕大学院長から大学院生11人にそれぞれ学位記が授与された。

開式の辞に続く校歌斉唱の場面では、新型コロナウイルスの流行で入学時に歌うことができなかつた校歌を斉唱することができ、卒業生たちは感慨深いひと時を過ごした。

当日は、交通機関の乱れで開始時間が遅れたものの、式典は滞りなく執り行われ、終了後の記念撮影では、共に学んだ仲間と晴々しい笑顔で思い出の瞬間をカメラに収めている。

（広報 帆足リエ）

**大川
キャンパス**

大川キャンパスでは、3月6日、福岡保健医療学部および大学院の学位記授与式を執り行い、学部生192名、大学院生33名に学位記を授与した。式典では

理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科の成績最優秀者に学長賞が、在学中のボランティア活動を通して地域へ貢献した言語聴覚学科の斎藤英恵さんに対して、大川市の倉重良一市長より大川市長賞が授与された。学長、理事長と式辞が続き、言語聴覚学科の岡元結花さんが、「コロナ禍での多くの困難を仲間と乗り越えた思い出を自信に変え、新社会人として大きく一步を踏み出したい」と謝辞を述べた。

（広報 帆足リエ）

※役職は当時。

大学院生総代・大学院長賞

医学研究科 博士課程 医学専攻

竹下 友一郎



呼吸器内科臨床医として、2020年の国際医療福祉大学成田病院開設と同時に赴任した私が直面したのは、COVID-19のパンデミックでした。病棟の逼迫が続く中で、何故COVID-19が急激に重症化するのか、重症化予測はできるのか、などの疑問を抱いていました。このような疑問が実はリサーチマインドなのだと気付かされた私は、2021年に本学大学院へ入学しました。論文作成は、呼吸器内科チームや、他診療科の先生方のサポートあってのものであり、三年間で培った臨床力、研究力、人間力は、今後の医師人生でさらに高めていこうと思います。

大学院生総代

薬学研究科 博士課程 医療・生命薬学専攻

手塚 千裕



私は病院薬剤師としての経験を積むにつれ、臨床上の問題点を解決するためには基礎研究が重要となると考えるようになり、本学大学院に入学しました。未だ明らかとなっていない物事に、多角的な視点で突き詰めていくことの難しさや大切さを学びました。大学院での学びや培った能力は、医療に携わる者として大きな糧となることだと思います。医療・福祉の各分野の発展に貢献できるよう、今後も精進してまいります。ご指導ご鞭撻を賜りました職員や学生の皆様、友人、家族に、心より御礼申し上げます。

大学院生総代

医学研究科 博士課程 公衆衛生学専攻

山浦 礼子



私は本学に6年前に開設された医学研究科公衆衛生学専攻の第一期生として入学しました。会社就業後に同級生とともに臨んだ授業や毎週開催されたゼミなど、密度の濃い時間を過ごすことができました。博士課程では、修士課程に引き続きご指導いただいた山崎力先生をはじめ、諸先生方から、研究に対する姿勢を学ぶことができたと思っています。これから、本学で学んだことを礎に、医療や研究成果を社会に提供・還元できるよう、研鑽をさらに積んでいく所存です。

大学院生総代

医療福祉学研究科 博士課程 保健医療学専攻

藤澤 希美



コロナ禍で研究にご協力くださいました当事者・看護職の皆様、ご指導を賜りました岡田佳詠教授、相澤和美元特任教授をはじめ、諸先生方に心より感謝申し上げます。私が進学を決意した理由は、精神障がいを有する人のありたい姿に向けた看護実践への情熱からでした。今後もこの情熱を絶やさず、大学院で培った学問的誠実性を生かし、さまざまな課題を抱える精神医療に向き合い、自らの陶冶と精神看護のさらなる発展に尽くしてまいります。

大学院生総代

医療福祉学研究科 博士課程
保健医療学専攻 臨床検査学分野

西之園 茉



在学中には高血圧とmicroRNAの関連性について研究を行っておりましたが、研究することは自分が想像するよりもはるかに難しく、その奥深さや複雑さを知るとともに、己の未熟さを痛感することとなりました。しかし、さまざまな出会いや繋がりに恵まれ、充実した時間を過ごすことができ、無事博士課程を修了することができました。ご指導いただきました廣岡良隆教授、安田聖子講師をはじめ、お力添えをいただいたすべての方々に、心より感謝申し上げます。

大学院長賞

医療福祉学研究科 博士課程
保健医療学専攻 臨床検査学分野

米根 鉄矢



ご指導いただきました清宮正徳教授、国際医療福祉大学成田病院検査部の皆さまのご協力によって、受賞できたものだと思っております。修了年度の8月に第二子が生まれ、教員・父親・学生の三足の草鞋を履いての3年間でしたが、職場の先生方のご助力のおかげで、3年間で博士課程を修了することができました。厚く御礼申し上げます。今後も携わる方々への感謝を忘れず、万里一空の境地をめざし、研究に邁進していきたいと思います。

大学院長賞

医療福祉学研究科 修士課程
保健医療学専攻 理学療法学分野

伊藤 梨也花



この栄誉ある賞を受賞できましたのも、指導してくださった久保晃教授、井川達也講師、ゼミの先輩方の手厚い指導の賜物と存じます。心より感謝申し上げます。臨床現場で働きながらの進学であり、苦悩することも多くありました。しかし周囲の方々に支えられ論文投稿や学会発表もさせていただき、充実した2年間を過ごすことができました。今後も社会に貢献できるよう精進してまいります。

大学院長賞

医学研究科 修士課程
公衆衛生学専攻

田村 祐之



ご指導いただきました中田光紀教授、池田俊也教授、横山和仁教授、中田ゼミの皆様、そして大学院生活を支えてくれた友人と家族、特に妻には心より感謝いたします。質の高い論文になるように心がけて取り組んでいたので、大学院長賞という形になったことは大変嬉しく思います。今後は労働者における健康問題の解決に貢献していきたいと思います。

理事長賞、学長賞・卒業生総代

学長賞・卒業生総代



保健医療学部
視機能療法学科
齋藤 明日香

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう真っただ中で入学し、さまざまな行事や授業もままならない不安な日々を過ごしたあの日から、早くも4年の月日が経ちました。専門職としての知識や技術を学び、数多くの人々との出会いを通じて多様な考え方や価値観に触れることで、一人の人間として大きく成長することができました。

4月からは、チーム医療の中でそれぞれの専門性を十二分に発揮し、社会の期待に応えることができるよう自己研鑽に励んでまいります。

学長賞

保健医療学部
作業療法学科
岡崎 茉莉



学長賞

保健医療学部
言語聴覚学科
藤田 陽生



学長賞

医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科
山口 詩織



学長賞

薬学部
薬学科
藤平 ほのか



学長賞

保健医療学部
看護学科
菊地 純香



学長賞

保健医療学部
理学療法学科
遠田 海佳



学長賞

保健医療学部
放射線・情報科学科
石川 倍



学長賞・卒業生総代



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
医療マネジメント学科
吉崎 彩乃

コロナ禍という先行きが不透明な中での入学となりましたが、私自身、4年間を通して、「心に余白を持つ」、「一方向ではなく多角的に見る」、「無駄な学びは一つもない」ことを学びました。

本学で学べたこと、学ぶ機会を得られたこと、そして、実り多き価値ある4年間を過ごせたことに、心から感謝申し上げます。今後は、本学大学院での研究を通して、社会に貢献し、医療業界に寄与できるよう、尽力してまいります。

学長賞

赤坂心理・医療福祉
マネジメント学部
心理学科
飯村 庸子



学長賞・卒業生総代



小田原保健医療学部
作業療法学科
中込 ひかる

この4年間は、先生方や友人、家族をはじめとする、そばにいて支えてくださる方々に感謝でいっぱいの日々でした。

山あり谷ありの学生生活の中で、友人と励まし合った春夏秋冬は、今後社会人として働く上での心の支えとなると感じます。

4月からは、さらなる知識や技術の習得を惜しまず、努力し続けます。そして、会うだけで自然と明るい気持ちを持っていただける、対象者に寄り添うことができる作業療法士をめざし、精進していきます。

学長賞

小田原保健医療学部
看護学科
櫻井 杏奈



学長賞

小田原保健医療学部
理学療法学科
奥津 総太



理事長賞



医学部 医学科
**ニン プイン アウン
(ミャンマー)**

大学生活を振り返ると、この6年間は本当に充実した日々でした。長いようであつていう間だったと思う一方、辛いようで楽しかった気がします。試験に追われる日々、CBTや臨床実習や医師国家試験などの中でお互いに助け合い、前向きに乗り越えることができました。6年間でたくさんの人々との出会い、たくさんの患者さんとの接点を

通じて医学の知識だけではなく自分自身が人としての成長を感じています。

今後も今まで学んだことを生かし、自己研鑽を重ねると共に本学と母国との架け橋としてさまざまな領域から活躍してまいりたいと思います。最後に、高木邦格理事長、指導してくださいました先生方、職員の方、先輩方、友人や家族にも心より感謝いたします。

学長賞

医学部
医学科
神野 規人



学長賞

成田保健医療学部
医学検査学科
町島 花音



学長賞

成田保健医療学部
放射線・情報科学科
吉野 乃斗



学長賞・卒業生総代

成田保健医療学部
理学療法学科
船渡 健斗



成田保健医療学部
作業療法学科
渡部 穂洋



成田保健医療学部
言語聴覚学科
増田 さりあ



成田看護学部 看護学科 **石井 朱莉**

学長賞・卒業生総代



福岡保健医療学部
作業療法学科
本堀 翔大



一番の思い出は、関連職種連携教育を通して、学内外の多くの方たちと関わることができたことです。グループワークや病院での実習経験により、自分がめざす職種以外の知識や考え方を理解し、取り入れることができます。実習を支えてくださった皆さんや先生方、そして共に学んだ友人たちに心から感謝いたします。卒業後は、人ととのつながりを大切にし、患者様や対象者様の生活がよりよいものになるよう支援できる作業療法士になりたいと考えます。そのため、大学で学んだことを生かし、意欲的に勉強に取り組みながら、経験を積んでいきたいと思います。

学長賞

福岡保健医療学部
理学療法学科
森 泉沙紀



学長賞

福岡保健医療学部
言語聴覚学科
岡元 結花



学長賞

福岡保健医療学部
医学検査学科
喜友名 愛



新任のごあいさつ

Greetings



国際医療福祉大学
大学院副大学院長
(大学院教務担当)

伊豫 雅臣

小中高と千葉県の九十九里浜地域で過ごし、1984年に千葉大学医学部を卒業。同附属病院精神神経科での研修の後、国立精神・神経センター精神保健研究所で薬物依存や精神病に関する研究に従事。浜松医科大学精神神経医学講座助教授を経て、2000年6月から2024年3月まで千葉大学の精神医学教授。2024年4月に本学に着任。趣味はバスケットボール。

2024年4月1日付けで精神医療統括教授、副大学院長として成田キャンパスに着任した精神科医の伊豫雅臣と申します。2024年3月末まで24年近く千葉大学で精神医学の教授で、司法精神保健学を専門とする千葉大学社会精神保健教育研究センター長も併任していました。研究は行動薬理生化学や画像診断学、分子生物学、臨床精神薬理学、認知行動療法、難治性統合失調症の研究など精神医学に係る分野を幅広く行ってきました。また大学病院でも精神科臨床を行ってきました。最近ではアスリートを対象としたメンタルヘルスやメンタルトレーニングに関する活動も行っております。4月7日の入学式に参加して、本学は抽象的な「視点」のみならず実際に多くの海外留学生を受け入れており、まさに国際的な医療福祉の大学であると感銘を受けました。成長し続けるアジアの国々と深い関係を結んでおり、アジアそして世界の医療福祉をリードする人材の育成に力を注いで本学の発展に少しでも寄与できるよう努力したいと思います。よろしくお願いします。



国際医療福祉大学
三田病院
病院長

池田 佳史

慶應義塾大学医学部卒。医学博士。慶應義塾大学客員教授。前国際医療福祉大学熱海病院病院長、元国際医療福祉大学三田病院消化器センター長、副院長。日本外科学会・日本消化器外科学会・日本消化器内視鏡学会・日本食道学会・日本内分泌外科学会指導医・専門医。アメリカ外科学会Fellow (FACS)。専門は、上部消化管外科・内分泌外科。甲状腺内視鏡手術の先駆者であり第一人者。

このたび国際医療福祉大学三田病院病院長に就任いたしました。三田病院は、2005年に東京専売病院を継承し北島政樹先生が初代病院長として築かれた基礎のもと、小川病院長、宮崎病院長、山田前病院長と医療提供体制の整備に継続的に取り組み、現在の充実した医療体制が構築されました。今後もこの体制をさらに強化し、全国各地の先生方より紹介いただいた患者様を受け入れ、高度な医療を提供してまいります。また、病院と病院、病院と診療所の連携、いわゆる病病・病診連携を強化し地域の医療に貢献し、予防医学・救急医療をさらに充実させていきたいと思っております。そのためには、医師とともに患者様を支える看護部、放射線室、リハビリ室、薬剤部、検査室、栄養室の皆様の力と、病院を支える事務部、防災室、清掃スタッフなどの皆様の力が重要と考えています。三田病院の職員一人ひとりが、病院を愛し、自分の仕事に誇りと責任感をもって働ける環境を作りたいと考えています。職員とともに力を合わせ、本院と本学の発展に貢献する所存です。ご指導・ご鞭撻賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



国際医療福祉大学
副学長(九州担当)
副大学院長

筒井 裕之

九州大学医学部卒業。医学博士。北海道大学循環病態内科学教授、北海道大学病院副病院長、九州大学循環器内科学教授を歴任。専門は循環器内科学、心不全、心筋症。厚生労働省指定難病検討委員会専門委員・厚生科学審議会専門委員・医薬品医療機器総合機構専門委員。日本心不全学会前理事長、日本心臓リハビリテーション学会理事。第29回日本心臓財団 佐藤賞受賞。第87回日本循環器学会学術集会会長。

このたび国際医療福祉大学大学院・医学部教授、ならびに副学長(九州担当)・副大学院長を拝命いたしました。今まで北海道大学循環病態内科学、その後九州大学循環器内科学教授として診療・研究・教育に従事してまいりました。国際医療福祉大学大川キャンパスには福岡保健医療学部と福岡薬学部があり、九州のみならず西日本の地域医療を牽引する看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、薬剤師の養成をめざしています。大川キャンパスは、多彩な学部学科構成と関連職種の連携教育とともに、グループ発祥の病院として114年の歴史を持つ高木病院や日本屈指の規模を誇る柳川リハビリテーション病院などの充実した関連病院・施設と一体となった理想的な教育環境が最大の特長です。高木病院では医学部生を含め医療福祉を学ぶ多くの学生実習や臨床研修医の臨床研修が行われています。幅広い知識と確かな技術を併せ持った次世代を担う優れた医療専門職の育成に力を尽くしてまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。



国際医療福祉大学
塩谷病院
病院長

佐藤 敦久

新潟大学医学部卒業、医学博士。慶應義塾大学医学部腎臓・内分泌内科非常勤講師。前国際医療福祉大学三田病院副院長、腎臓・高血圧内科部長。専門分野は、腎臓・高血圧・内分泌学(特に副腎疾患)。日本高血圧学会評議員、日本腎臓学会評議員、日本内分泌学会評議員、日本結合組織学会評議員、日本心血管内分泌代謝学会評議員。The Editorial Board of: Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology.

このたび、国際医療福祉大学塩谷病院の病院長を拝命いたしました。これまで須田康文前病院長を中心に築かれてきた地域の基幹病院としての信頼を損なわないよう、より一層努力し、患者様が安心して受診できるような質の高い病院にしてまいりたいと思います。塩谷病院は矢板市を中心に、2市2町の中核病院として発展してまいりました。急性期病床、回復期リハビリテーション病床に加え、療養病床を備えております。併設の「しおや総合在宅ケアセンター」では各種介護サービスやリハビリテーション指導に取り組んでいます。そのような意味で地元の方々からの期待は大変大きいのですが、医療スタッフの不足もあり、まだまだ十分に対応できているとは言えません。今後は、意欲のある若い医師が集まるような体制作りも大切と思います。また私は腎臓・高血圧が専門ですが、栃木県北地域には腎臓専門医がとても少なく、腎臓病、高血圧、糖尿病の患者様が当院でしっかりと治療が受けられるよう貢献したいと思います。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



国際医療福祉大学
副学長
(人事・広報・教務担当)

山崎 美佳

慶應義塾大学文学部英米文学科卒業後、グループ病院を皮切りに、福祉施設、大学・教育機関とグループ全体の人事に従事。大学人事局長、常務理事等を経て2024年4月より現職。医療法人財団順和会常務理事。

4月より副学長を拝命いたしました。グループで40年、本学では開学準備の段階から人事に携わってまいりました。この間、医療福祉のすべての職種の方々の面接を行い、多くの出会いがありました。また、医療福祉の現場と教育現場の連携強化、これも大きな課題として取り組んでまいりました。グループでは、この30年で多くの施設が整備され、目覚ましい発展を遂げましたが、短期間でのこの達成は、外部から見れば驚異であり、教職員・学生・本学に関わった人々の大変な努力の結晶であると考えます。いつの時代であっても「人」は最も大切な存在です。今後も本学に素晴らしい人材を集め、一人ひとりが活躍できる体制を構築する、人事担当としての不变のゴールに更に力を尽くしたいと思います。また、少子化の中、厳しい環境が続きますが、この大学だからこそ実現できることがまだ多くあります。この役職を拝命した意義を自身に問しながら、人事のみならず、領域を広げ、教職員が一体となれるよう、グループの更なる飛躍をめざしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



国際医療福祉大学
熱海病院
病院長

山田 佳彦

日本医科大学卒、横浜市立大学大学院修了、医学博士。前横浜市立大学医学部第三内科講師。日本内分泌学会認定指導医・内分泌代謝科専門医、日本糖尿病学会認定指導医・糖尿病専門医、厚生労働省認定臨床研修指導医、日本内科学会認定指導医・総合内科専門医・内科医、緩和ケア研修修了、インフェクションコントロールドクター、日本救急医学会認定ICLSコースディレクター。

熱海市の人口は年々減少し、現在約33,000人。高齢化率が48%を超えております。一方、肺がん、胃がん、肝臓がん、大腸がん、乳がんの5大がんの検診率は静岡県下で最も低い地域で、市民の生活の質(QOL)向上と予防医学分野の充実が重要な課題となっております。また、救急車の出動回数は年間約3,700件を超えております。このような地域において当院は、2016年4月に認定された地域がん診療病院として、また地域の2次救急医療をご提供する救急医療の拠点としても大きな役割を果たしております。そして、2019年4月には災害拠点病院の指定をうけ、災害時の医療救護活動の拠点としての役割を担っております。

国際医療福祉大学熱海病院は、各専門の診療科のほか、救急医療、予防医学、総合診療、リハビリテーションなど、時代に即した最先端の医療をご提供できる体制を整えております。静岡県東部、伊豆半島全域、神奈川県西部の医療を支える中核病院として、高齢者医療において日本の先駆となるべく、高齢者にやさしく、安心できる医療をご提供できるよう、全病院をあげて日々の診療を提供しております。

新任のごあいさつ

Greetings



成田薬学部 学部長/薬学科長
米持 悅生

千葉大学薬学部卒業・同大学大学院薬学研究科修了、薬学博士。文部省在外研究員ロンドン大学薬学部、東邦大学薬学部准教授、星葉科大学教授。日本薬学会副会頭・第144年会組織委員長、日本薬剤学会理事、製剤機械技術学会会長、厚生労働省薬剤師国家試験試験委員など。

新設の成田薬学部に薬学部長として着任いたしました。成田キャンパスにおける薬学部は、医療系総合大学の最後の仕上げとしての役割を担います。今春千葉県では薬学部が2校増え、募集人員が320人増加した激戦区でしたが、本学は幸い優秀な新入生に恵まれました。現在、少数精鋭の1年生担当教員が精力的に教育・研究活動を開始しています。薬学部としては、多職種連携教育の一層の充実、学部間連携による共同研究の推進といった、総合大学としての機能も担えるよう準備を進めております。お力添えをよろしくお願いいたします。



小田原保健医療学部 学部長
牧田 浩行

滋賀医科大学卒業。医学博士。前神奈川県立病院長。フランスInstitut Marcel KERBOULL留学、住友重機械健康保険組合浦賀病院診療部長、横浜市立大学整形外科臨床教授。日本人工関節学会評議員。国際医療福祉大学熱海病院上席副院長。

本年度より小田原保健医療学部長を拝命しました。昨今日本各地で災害が起こっています。求められるものは看護をはじめとした医療的支援です。知識と技術の習得だけでなく、これまでの臨床現場での経験を生かし、患者様に寄り添った看護のプロを育成したいと思います。一方、人体の組織・臓器はいずれも重要な意義と役割があります。消化器、呼吸器、循環器などは生きるために必須ですが、自分の意志で活用できる唯一の組織・臓器である運動器的重要性が今、注目されています。理学療法学科、作業療法学科では運動器のエキスパートを育成する所存です。



小田原保健医療学部 看護学科長
石村 佳代子

千葉大学看護学部卒業<看護学士>、千葉大学大学院看護学研究科修了<修士(看護学)>、聖路加看護大学院看護学研究科修了<博士(看護学)>、精神科病院勤務、静岡県立大学看護学部、順天堂大学保健看護学部、常葉大学健康科学部などを経て、本学に着任。

このたび、小田原保健医療学部看護学科の学科長を拝命いたしました。これまで、精神科病院勤務の後、静岡県内の看護系大学を中心に、看護基礎教育において精神看護学を担当してまいりました。これからは、担当領域だけでなく領域横断的な視座を持ち、円滑な学科運営に尽力する所存です。また、人それぞれの人生において、いつでも、どこでも、誰にでも、ニーズに即応した看護実践を可能にするための基盤となる看護学を修めた人材の育成に努力してまいります。今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



国際医療福祉大学 神経発達症研究センター長
/柳川療育センター 施設長
山下 裕史朗

久留米大学医学部卒業。医学博士。前久留米大学医学部小児科学講座主任教授、久留米大学高次脳疾患研究所客員教授。日本小児神経学会理事、第63回学術集会会長。日本ADHD学会理事。日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医。

前職では、小児神経・神経発達症を中心に臨床・教育・研究に携わってまいりました。地域においてADHD(注意欠如/多動症)治療プログラムを実践することで真の多職種連携を促進してきた経験から柳川療育センターでも多職種連携力を最大限に引き上げ、子どもたちのQOL(命のかがやき)が増し、ご家族に安心していただける療育を提供していく所存です。また併設する国際医療福祉大学 神経発達症研究センターにおける診断・治療法研究を促進してまいります。



福岡薬学部 学部長/薬学科長
家入 一郎

薬学博士。九州大学名誉教授、元九州大学薬学部長・研究院長、前九州大学病院薬剤部長、専門は、薬物動態学、臨床薬理学、薬理遺伝学。日本TDM学会・日本くすりと糖尿病学会、臨床薬理研究振興財団などの評議員・理事。ISSX New Investigator Award、JSSX 学会賞、病院薬学賞などを受賞。

九州大学薬学部と九州大学病院薬剤部と鳥取大学病院薬剤部間を2往復し、基礎と臨床薬学を経験してきました。両者の相互作用が重要と考えています。福岡薬学部は、今年の5年生が最上級生となり、長期病院・薬局実務実習に始まり、6年生にかけての卒業研究、そして初めての薬剤師国家試験を経験します。学生、教員ともに重要な時期を迎えます。知識や経験に加え、人間性・社会性・国際性をバランス良く有し、センス豊かな上質な薬剤師を数多く輩出してまいりたいと思います。



医学部 医学科長
岡本 秀彦

大阪大学医学部、同大学大学院修了、博士(医学)。カナダToronto University Research Fellow、ドイツMünster University Research Scientist、生理学研究所准教授を経て本学医学部生理学教授に着任。現在、医学教育統括センター長を併任。

私は本学赴任まで研究所で研究活動を主にしておりました。医学部は2期生が卒業し、いよいよ教育機関としての医学部のみならず、卒業生も含め継続的に発展できる体制を構築する必要があります。医学部の使命として教育・研究・臨床の3本柱がありますが、特に研究体制の強化を図りたいと思います。研究は成果が出るまで時間・費用がかかりますが、大学組織の「根(root)」であります。大学が大きく発展するためには、その「根」を広く深く張る必要があります。本学の強みである多職種連携を生かし学部学科を横断した研究体制の充実をめざします。



保健医療学部 作業療法学科長
関森 英伸

国際医療福祉大学保健学部作業療法学科卒業(3期生)。卒業後、国際医療福祉リハビリテーションセンターなど療育園勤務。その後、母校である大田原キャンパス保健医療学部作業療法学科教員となり現在に至る。国際医療福祉大学大学院博士課程修了(保健医療学博士)。

これまで27年にわたり、大田原にて学生、関連施設職員、教員と多くの経験をしてまいりました。初代学科長である杉原素子先生から始まった大田原キャンパスの歴史と伝統のバトンを卒業生として繋ぎ、「共に生きる社会の実現」について自ら考えを持ち、対象者の人生に寄り添い考え方抜き、その人らしい生活の実現を支援できる作業療法士を輩出でまいります。医療機関に留まらず地域社会で活躍できる我々作業療法士の可能性は無限大です。各キャンパス、関連施設、地域の方々、卒業生と連携を密にとり、教員一丸となり本学の発展、後輩育成に励みます。



保健医療学部 視機能療法学科長
内川 義和

川崎医療福祉大学卒業、視能訓練士の資格取得。同大学院医療技術学研究科で感覚矯正学を専攻。その後、九州保健福祉大学大学院で保健科学を専攻。保健科学博士。日本視能訓練士協会理事、全国視能訓練士学校協会常務理事を歴任。2024年第65回日本視能矯正学会会長。

視能訓練士は一人ひとりの「みる・みえる」を守り、支える専門職。先端技術を駆使したさまざまな眼科検査や健診(検診)を通じて、大切な眼の健康を守ります。また、視覚発達の問題や中途視覚障害など、「みる・みえる」に問題を抱えるすべての人々を対象に、視能矯正・訓練や視覚リハビリテーションを行います。視能訓練士の魅力を最大限伝えるとともに、本学科の豊富な実践教育を通じて、乳幼児から高齢者まで、幅広い世代の方々の「みる・みえる」を守り、一人ひとりの視覚の質の維持・向上を支援できる視能訓練士の養成に尽力します。



山王バースセンター 院長
左合 治彦

東京慈恵会医科大学卒。医学博士。米カルフォルニア大学サンフランシスコ医学部フェロー。国立成育医療研究センター副院長・周産期・母性診療センター長、遺伝診療センター長。産婦人科専門医、周産期専門医(母体・胎児)、臨床遺伝専門医、超音波専門医。

北川道弘先生の後任として山王バースセンター院長に就任いたしました。国立成育医療研究センターでは、周産期・母性診療センター長としてハイリスク妊娠管理、難易度の高い産科手術、出生前診断、胎児治療などを15年間にわたり実践するとともに後進の指導をしてきました。これまでの経験を生かして、お一人おひとりの妊婦様に合った質の高い周産期医療とケアを提供していきたいと考えています。妊婦様が安心・安全・快適で満足していただけるように、また働きやすい環境にも心を配り山王バースセンターを発展させていきたいと思います。



おおたわら風花苑 施設長
佐藤 博基

国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科卒。社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員。大学卒業後、那須療護園(現サポートハウス那須)に介護職として入職し、その後おおたわら風花苑で生活相談員として16年間従事した。生活支援課課長を経て現職。

このたび、おおたわら風花苑施設長を拝命いたしました。当苑は国際医療福祉大学大田原キャンパスの構内にあり、全室個室トイレ付のユニット型の特別養護老人ホームとして2007年に開設し18年目を迎えていました。これまで関連病院と連携しながら入居者様の安心安全な生活を提供できるよう努めてまいりました。今後は変わりゆく時代の中で新しいことに積極的に取り組み、入居者様お一人おひとりがその人らしい生活ができる体制を作ってまいります。今後とも皆様方からのご支援、ご指導のほどよろしくお願いします。

令和6年度 学部・大学院・特別専攻科 新入生概要

学部新入生概要			
キャンバス	学部	学科	入学者数
大田原	保健医療学部	看護学科	115
		理学療法学科	107
		作業療法学科	83
		言語聴覚学科	77
		視機能療法学科	49
	医療福祉学部	放射線・情報科学科	112
		医療福祉・マネジメント学科	112
成田	薬学部	薬学科	180
		大田原キャンパス合計	835
成田	医学部	医学科	144
	成田看護学部	看護学科	104
	保健医療学部	理学療法学科	85
		作業療法学科	43
		言語聴覚学科	42
	成田薬学部	医学検査学科	81
		放射線・情報科学科	52
		薬学科	121
	成田キャンパス合計		672
	赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	心理学科	65
東京赤坂	マネジメント学部	医療マネジメント学科	50
		東京赤坂キャンパス合計	115
	小田原	看護学科	83
小田原	小田原保健医療学部	理学療法学科	82
	作業療法学科	41	
	小田原キャンパス合計		206

大学院新入生概要			
課程	研究科	専攻	入学者数
修士課程	医学研究科	公衆衛生学専攻(専門職学位課程)	29
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	193
	薬科学研究科	生命薬科学専攻	0
博士課程	修士課程合計		313
大学院合計	医学研究科	医学専攻	37
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	85
	薬学研究科	医療・生命薬学専攻	3
大学院合計	博士課程合計		125
438			

特別専攻科新入生概要			
臨床工学特別専攻科	介護福祉特別専攻科	合計	11
		合計	23

国際医療福祉大学成田病院

NAAのチャリティイベントで ヘリコプターの搭乗体験

3月10日、NAA（成田国際空港株式会社）グループによる「三里塚プロジェクト実行委員会」主催のヘリコプター搭乗体験ツアーに、当院のヘリポートを開放した。これは2029年に3本目の新滑走路を稼働する成田空港の機能強化に伴い、将来的には7万人の空港従業員が必要といわれているなか、空港の将来の担う地元のこどもたちに成田空港への興味と関心を持ってもらうため、成田市三里塚エリアを見学したり空の上から空港を見たりすることで、この地域の魅力を感じてもらおうというNAAによるチャリティイベントの一環。

招待された児童養護施設の20人のこどもたちが当院のヘリポートに集合し、地元在住の航空写真家によるヘリコプターの機体説明や空港までの往復フライトを体験した。こどもたちは当院の広大なヘリポートに驚きながら、何度も発着するヘリコプターに大きな歓声を上げ、空港までのミニフライトを楽しんでいた。

地域に開かれた大学病院として、今後もこうした地域のイベントに積極的に協力していく。



●ヘリコプター搭乗体験を楽しむこどもたち

4月1日、総勢1,680名と迎えた入社式

開院5年目を迎えた当院は、4月1日に成田国際ホールで入社式を開催した。今年は医師77人、看護師104人、メディカルスタッフ52人をはじめ計266人が入職、これにより当院のスタッフは総勢1,680人となった。吉野病院長は「今年も多くの仲間を迎えうれしく思います。今後さらに稼働病床を増加させながら、成長の継続という目標のもとと一緒にがんばっていきましょう」とご挨拶された。

昨年度は、救急車の受け入れ約5,800件、手術7,000件超と過去最多、また1日平均の外来は約1,100人／入院は約350人と、2020年の開院以来、増加傾向が続いた。

4月には新たに新生児集中治療部を立ち上げ、新生児を専門とする2人の医師を迎え、待望のNICU・GCUの開設準備を進めていく。

研修医の数も66人となった当院は、大学病院として医育医療機関の役割を果たしながら、地域医療への貢献を軸に国際的な病院をめざしスタッフ一丸となって尽力していく。
(広報室)



●4月1日の入社式

国際医療福祉大学病院

「難病医療ネットワーク研修会」を開催

3月8日、在宅難病患者様の支援に必要な知識および技術をご家族などの支援者が習得することを目的に、「令和5年度 難病医療ネットワーク研修会」を開催した。

この研修会は、在宅難病患者様とご家族が安心して療養生活を送ることをめざしており、看護師、介護支援専門員、訪問看護員など多くの方にご参加をいただいた。当院脳神経内科の橋本律夫医師を座長とし、同部長の小川朋子医師をはじめ5人の講師が、特定医療費助成制度、ALS患者様の病態や在宅療養支援のありかたについて、わかりやすく解説をした。

なかでも、神経難病は症状が進行性で、患者様は常にケアとサポートを必要とする。そのため、医師や看護師ばかりではなく、ケアマネージャーや訪問看護、訪問リハビリテーションスタッフを含めた幅広いチーム医療が重要だ。

当院は、栃木県指定の難病診療連携拠点病院であり、専門的医療の提供と生活面でのきめ細やかな支援により、これからも県北地域における神経難病医療の中心的存在をめざしていく。

(総務課 中野雄斗)



●研修会の様子

国際医療福祉大学三田病院

「国際医療福祉大学三田病院耳鼻咽喉科 人工聴覚器手術10周年 記念講演会」を開催

当院では、2013年より耳鼻咽喉科 聴覚・人工内耳センター長の岩崎聴医学部教授のもと、人工聴覚器手術を行ってきた。読売新聞「病院の実力」(2023年11月15日全国版、11月19日都内版)においては、「難聴・耳鳴り」の全国の主な医療機関の治療実績(2022年)のうち、当院の人工内耳手術数、補聴器適合検査数、言語聴覚士による聴覚リハビリ(補聴器によるものも含む)数がトップクラスの成績として掲載されている。

来たる6月15日には、本学の東京赤坂キャンパス講堂にて、「国際医療福祉大学三田病院耳鼻咽喉科 人工聴覚器手術10周年記念講演会」を開催することになった。岩崎教授の講演のほか、ST(言語聴覚士)よりリハビリテーションの報告、患者会の活動紹介や当院で手術をされた人工内耳装用者によるフルート・ピアノの演奏会等を予定しており、当院の患者様を中心に、当事者や医療・福祉関係者を参加対象としている。参加希望の方は、当院総務課までお問い合わせいただきたい。
(総務課 山本悦子)



●岩崎聴医学部教授



「病院の実力」
耳鼻科の記事

国際医療福祉大学熱海病院

健康講座「腰痛～予防と リハビリテーション～」を開催

3月14日、健康講座「腰痛～予防とリハビリテーション～」を開催した。第一部は整形外科の医師の立場から、「腰痛のメカニズムと腰痛を予防するための9箇条」について、第二部は理学療法士の視点から、「リハビリテーションの視点から急性と慢性腰痛の原因に応じた日常生活上の対応方法」について、それぞれ講演を行った。

講演以外に、リハビリテーション部による体幹筋力・股関節の柔軟性・立位姿勢の身体計測を実施し、姿勢の特徴に応じた体操も行った。開催後のアンケートには、「姿勢を見直すきっかけとなつた」「早速実践し、健康維持に努めたい」などの声が寄せられた。

今後も、熱海伊東圏域地域リハビリテーション強化推進事業を通して、高齢化が進む地域の中核病院として地域住民の健康増進に向けた取り組みをしていきたい。

(リハビリテーション部 遠藤大)



●身体計測の様子



●体操を行う参加者

国際医療福祉大学塩谷病院

ICLS講習会の実施

3月10日、当院の大会議室にて「ICLS (Immediate Cardiac Life Support) 講習会」を実施した。この研修は医療従事者のための蘇生トレーニングコースで、緊急性の高い病態のうち特に、「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」の習得を目標としている。

講師は一瀬雅典副院長を中心に、本コースを受講した当院の職員と外部から招聘した千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学の藏田能裕先生、千葉メディカルセンターの平澤壯一朗先生、塩谷広域行政組合消防署の方にご協力をいただいた。

研修に参加した職員はグループに分かれ、シミュレーション実習で実践的な学びを体験。参加者からは「患者様を救えるよう努めることが最重要であり、日々の臨床業務において、率先した行動力の必要性を改めて実感した」と話していた。

(総務・人事課 後藤文栄)



●シミュレーション実習風景

国際医療福祉大学市川病院

「第9回 リハビリカフェ」を開催

3月16日、「第9回 リハビリカフェ」を開催した。

「リハビリカフェ」は当院の恒例イベントで、脳卒中や骨折、呼吸器疾患や循環器疾患など、さまざまな疾患でリハビリテーションを体験された方や、そのご家族が気軽に集まり、楽しく過ごしていく場として四半期ごとに実施している。

OT(作業療法士)によるミニ講座は、「日常生活における動きの工夫」と題し、転倒や外傷を防いで生活できる工夫について、スライドを用いてわかりやすく伝えた。また、軽運動として取り入れた太極拳やレクリエーション活動としてのホットケーキづくりでは、皆様が笑顔で一生懸命に取り組んでいた。「悩み相談会」では、参加者の日常生活に関する悩みごとについて、リハビリテーション専門職が親身になって相談相手となることができた。

今回は13人の参加者であったが、外出する機会が少なくなっている患者様のより多くが、外出目的の1つとして利用いただけるよう、今後も継続していきたい。

(総務人事課 高田聰)



●スライドを使ったミニ講座

●ホットケーキづくりの様子

山王病院

山王病院、山王バースセンターで 新たな診療体制がスタート

山王病院では4月、リウマチ・膠原病内科に前東京女子医科大学膠原病リウマチ内科学分野教授・基幹分野長で、膠原病(特に関節リウマチや血管炎)のエキスパートである針谷正祥医師が内科部長(リウマチ・膠原病)として着任した。また、耳鼻咽喉科には前東京医科大学茨城医療センター耳鼻咽喉科科長・教授で、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、めまいを専門とし、特に内視鏡下鼻副鼻腔手術に精通する大塚康司医師が耳鼻咽喉科部長として着任した。それそれで新たな診療体制となった。

さらに、山王バースセンターでは、前国立成育医療研究センター副院長・周産期母性診療センター長・遺伝診療センター長の左合治彦医師を新院長として迎え(P13参照)、これに伴い開設以来院長を務めてきた北川道弘医師は名誉院長となった。

山王病院の産科・婦人科と山王バースセンターでは、2月より出産された方へのお祝いの気持ちを込めて、「お祝い膳」のご提供を始めた。今後も継続して、さらなるサービスの充実を図っていく。

(総務課 青島千恵)
(メイン: ローストビーフ)



国際的センスを備え、眞の国際人養成をめざす本学の基本理念を実現するため、1999年から正規授業科目となった「海外保健福祉事情」は、コロナ禍の中断を経て、2023年度からはコロナ禍以前の規模に戻り実施されている。総合教育科の本講座では、世界の各地に10日から2週間訪問し、現地で研修を受ける。2023年度冬季の講座は8か国、12の医療機関で実施され、大田原、成田、東京赤坂、小田原の各キャンパスの学生267人が参加、それぞれの国の医療・福祉事情を学んだ。今号では、このうち、9グループのレポートを紹介する。
(成田国際交流センター 辻大輔)

ポーランド ブロツワフ医科大学

講座初のポーランド研修

海外保健福祉事情としては初のポーランド研修には学生12人、教員2人が参加。訪問先のブロツワフ医科大学の国際室に配慮の行き届いたプログラムを組んでもらい、同大の医学生にもきめ細かくサポートしてもらった。長い歴史を持つ大学では人体解剖の標本の展示に圧倒された。また、アウシュビッツ収容所跡の見学に加え、医療倫理の問題、ヨーロッパの薬学の歴史など幅広いテーマの講義やワークショップを通じ、充実した体験ができた。特にアウシュビッツでは、虐殺されたユダヤ人から没収された山積みの靴やカバン、眼鏡とガス室を観察。訪問後は、このような非人道的な行為を二度と繰り返さないように何が大切かを考える機会となった。

成田看護学部 中澤実咲
成田総合教育センター 豊浩子准教授



●国立アウシュビッツ・ビルケナウ博物館敷地内に残る建築物を見学



●ブロツワフ医科大学薬学部キャンパスでの生命倫理の特別講義

イギリス イーストアングリア大学

福祉国家イギリスの伝統に触れる

研修地であるノリッジは古い歴史を持つ英イングランド東部の町。英国の伝統的な邸宅を訪問し、街並みや歴史的建造物を見学するなど、都市部とは一味違うと感じた。この町のイーストアングリア大学での研修では、最新型シミュレーション施設を利用した興味深い実習を体験できた。現地教員の講義は学生に質問を投げかける対話型の授業で、学生が楽しく学べるよう工夫されていて素晴らしい。現地の医療系学生との交流、福祉国家イギリスの伝統を感じさせる老人ホームの訪問など、数多くの貴重な経験ができた研修だった。老人ホームでのTOMODACHI HOURでは言語の壁を感じることもあったが、大変濃密な交流をすることができた。

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科 藤本千鶴
薬学部薬学科 松浦能行教授
成田保健医療学部言語聴覚学科 佐々木香緒里講師



●実習の様子

ハンガリー センメルワイズ大学

東欧圏の医療・リハビリ事情を理解

ハンガリーの研修では、センメルワイズ大学のほか、軍病院、国立のリハビリテーションセンターなど講義だけでなく急性期病院、高齢者施設などさまざまな施設を見学した。医療器材の充実度など日本よりも優れているものもあった。喫煙、栄養摂取、飲酒文化では日本と異なるところがわかり、地域に適した医療提供の重要性を改めて認識できた。看護のクラスでは、学生全員で協力し、患者に必要なケアを話し合いながら患者への必要なケアの実践を導き出す形式が印象的で、有意義な学習方法だと思った。引率教員にとっても東欧圏の医療・リハビリテーション事情を知ることができ、有意義な機会だった。今後も交流できるようにしていかたい。

成田看護学部看護学科 榎本碧
成田保健医療学部言語聴覚学科 石山寿子准教授
成田保健医療学部理学療法学科 石井秀明講師



●センメルワイズ大学の理学療法学科の機材体験

シンガポール ナンヤン・ポリテクニック

多民族国家シンガポールの異文化を経験

大田原、成田、東京赤坂の3キャンパスの学生18人と教員2人が参加し、シンガポール、ナンヤン・ポリテクニックで1週間の研修を行った。充実した研修プログラムで、海外事情への理解が深まった。大学の施設や福祉施設の見学、シンガポールの福祉制度や高齢者向け玩具などについての講義を受け、シンガポールの福祉の現状や日本との相違点などを学ぶことができた。多民族国家のシンガポールはチャイナタウンやアラブストリートなど国でさまざまな文化に触ることができ、現地の観光や研修先の学生との交流を通して異文化を経験する貴重な機会だった。言語の壁は確かにあったが、学生間の交流がとても活発だったことが印象に残っている。

成田看護学部看護学科 石谷初音
薬学部薬学科 高崎新也准教授



●高齢者向け玩具を使った研修

タイ クリストチャン大学

タイ伝統のアロマ療法を施術

タイの研修先、クリストチャン大学(CUT)の学生、教職員にはとても暖かく迎えてもらった。実際、学生が体調を崩した際には現地教員が伝統的アロマ療法を施してくれ、学生自身がその効果を体感していた。一方、バンコク国際病院では日本語通訳を通して、日本との考え方の違いに驚いた。また、伝統的な代替医療が強く根付いているのも興味深かった。CUTでの交流では日本文化紹介や紙飛行機作りや

飛行競争を行い、これが大好評だった。ムエタイ(タイの国技、キックボクシング)学校では実際に指導を受け、大満足の様子。研修中に行った他学科の学生との交流では、各学科の視点から医療について話し合う時間が持てても有意義だった。

成田保健医療学部理学療法学科 川口遙
成田看護学部看護学科 浅野美知恵教授



●ムエタイの指導を受ける



●大好評だった紙飛行機作り

オーストラリア TAFE ゴールドコースト

交流でコミュニケーション能力向上

初めての海外で、貴重な経験を積むことができた。ホストファミリーや授業内の他の方との会話は英語で、苦戦ばかり。しかし、オーストラリアの人々と交流を深めることでコミュニケーション能力の向上や文化の違いを実感したことで考え方方が広がった。この研修を通して、新しい視野を持ち、成長を感じた。また、英語やオーストラリアの医療についての授業を受け、それ以外の時間は観光をし、充実した日々であった。本研修では、午前中には英語の授業、午後にはオーストラリアの医療に関する講義を受けた。講師の先生方は気さくに話しかけてくださり、楽しく授業を受けることができた。今後の人生に生きる研修となつたのではないか。



●すべての研修を終え満足げな参加者たち

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科 福井そら
成田看護学部看護学科 大谷則子教授

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科 長谷川晃准教授
小田原保健医療学部作業療法学科 岩上さやか講師

マレーシア マネジメント&サイエンス大学

多様性への理解深まる

マレーシアではシャーアラム市にあるマネジメント&サイエンス大学(MSU)における研修に2月23日から3月4日まで学生25人、引率教員2人が参加した。大学には民族、宗教など異なる文化や生活をバックグラウンドに持つ学生がいて、大学内に礼拝スペースや東洋医学科があるなど多民族国家ならではの光景が見られた。言語の壁はあったが、MSUが企画したマレーシア伝統文化・食の体験イベント、本学学生が企画したTOMODACHI HOURを通してMSUの学生との間で積極的な交流がさかんに行われた。この体験は学生がマレーシアの医療・保健事情やマレーシアの多様性への理解を深める貴重な機会になったようだ。



●実習の様子

保健医療学部作業療法学科 加藤杏純
成田保健医療学部放射線・情報科学科 小林純也教授



●先住民族の町ヤラバの神聖な川でアボリジニの文化を体験

オーストラリア TAFE ケアンズ

先住民族の町ヤラバを訪問

極寒の日本からオーストラリア・ケアンズへ。研修は、蒸し暑い早朝から始まった。英語クラスのほか医療職に不可欠な感染対策、心臓蘇生法などを能動的に学んだ。だが、屋内での学修だけなく、先住民族の町、ヤラバを訪問、アボリジニの文化や医療事情を体験でき、貴重な学びとなった。街から車で1時間なのに違う国であるかのように変化することに驚いた。研修では、日本との医療の違いや、改善したら良い点を学生それぞれが発見し、それをお互いに共有する姿もあり、医療学生として、他国の医療を感じる良い機会であった。また、グレートバリアリーフでのウミガメやカラフルな魚たちとの出会いも、研修の思い出に彩りを添えてくれた。

成田看護学部看護学科 渡邊葉月
成田保健医療学部医学検査学科 片山博徳教授
成田保健医療学部医学検査学科 木村明佐子准教授



●先住民族の町ヤラバの神聖な川でアボリジニの文化を体験

ベトナム 国立チョーライ病院、ホーチミン市医科薬科大学

将来の可能性を広げる機会

ベトナム、ホーチミンでの10日間の研修は、多くの学生にとって初の海外経験となった。国立チョーライ病院とホーチミン市医科薬科大学のどちらの研修でも学生たちは医療従事者や患者さまとのコミュニケーションを取り組んだ。現地のスタッフ、ツアーガイドなど多くの人と関わることで、学生たちは、違う言語を話しても、お互いを知り合うことで、仲を深めて良い関係を築くことができるのだと学んだようだ。また、今回は、国際協力機構(JICA)のホーチミンで働く日本人にお会いしてお話を聞くことができた。これをきっかけに「自分も海外で働いてみたい」と話す学生もいて、将来の可能性を広げる機会でもあった様子だった。

成田保健医療学部作業療法学科 中村有沙
成田看護学部看護学科長 岡田佳詠教授

2023年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

【看護学分野】	
・秋葉 喜美子	地域包括ケアシステムに求められる訪問看護師のコンピテンシーの探究
・北原 玉依	妊娠期のセルフ・コンパッションと生後4か月の第1子をもつ母親の育児不安との関連—産後4か月の育児不安を予測する妊娠期の要因—精神障害者のリカバリーへの理解と実践に向けた病棟看護師オンラインプログラムの作成と効果の検証
・藤澤 希美	
・仙波 洋子	2型糖尿病患者の血糖変動に関する食事や運動、生活リズムの検討
・森川 由紀	助産師のキャリア発達のための分娩期の助産実践能力自己評価尺度の開発
・平野 道枝	保存期慢性腎臓病患者の意思決定を支える熟達看護師による実践の構造
・鈴木 江利子	在宅で障害児を育てる親のコペアレンティングと健康関連QOLに関する研究
・石村 珠美	幼児期の医療的ケア児を育てる母親のプロダクティビティ特性の探究
・金子 真弓	人工膝関節全置換術患者の術後早期運動能力の変化に関する因子の検討
・廣島 のぶ子	介護経験のある看護師の自己成長を支援するための検討
【助産学分野】	
・藤木 久美子	子連れで働くことを選択した母親のワーク・ライフ・インテグレーション
【理学療法学分野】	
・佐藤 南	Grip strength as a predictor for home discharge in convalescent rehabilitation patients
・溝口 桂	2型糖尿病患者に対する自己決定理論の調整スタイルを考慮した身体活動促進プログラムの開発と効果検証
・下田 武良	保存期慢性腎臓病患者の意思決定を支える熟達看護師による実践の構造
・松崎 里美	Symptom recurrence and associated factors in postoperative patients with lumbar degenerative disease (邦題:腰椎変性疾患術後患者の症状再燃と関連因子について)
・小林 ちえみ	混合研究法を用いたStiff-Person Syndrome患者におけるQuality Of Life決定因子の検討
・柴 隆広	地域在住要支援・要介護高齢者におけるオステオサルコペニアの特徴
【作業療法学分野】	
・大沢 詩歩	感情価を統制した気分誘導が課題に与える影響—生理的反応と主観的経験による検討—
・木村 まり子	Weighted Blanketの重量による感覚刺激に対する生理学的反応
・平賀 勇貴	Effects of Occupational Therapy Practice on Patient Outcomes after High Tibial Osteotomy: A Non-randomized Study in Japan (邦題:高位脛骨切り術後患者における作業療法実践の影響:日本での非ランダム化比較試験)
・松下 航	Relationship between driving skills and cognitive functions in cerebrovascular disease patients and short-term effects of driving training (邦題:脳血管障害患者における運転技能と認知機能の関係及び運転トレーニングの短期的効果)
【言語聴覚分野】	
・上地 桃子	左半側空間無視患者における空間性短期記憶の検討
・木下 亜紀	外部専門家である言語聴覚士がデルファイ法で作成した「動画教材」の試用:肢体不自由特別支援学校教員に行う間接的介入方法として大腿骨近位部骨折術後の高齢者における嚥下関連筋の量的及び質的变化:超音波画像による研究
・清宮 悠人	音声障害患者における発声行動の評価: Voice Activity and Participation Profile (VAPP) を用いた検討
・石川 芽衣	談話における語の発話と単独呼称からみた失語症者の喚語障害の特性
【福祉支援工学分野】	
・鹿島 美恵子	高齢者の訪問作業療法における「活動・参加」の目標設定の課題—訪問作業療法の現状から—
・黒田 悠葵	脳卒中片麻痺者における下衣を上げる動作の分析-評価視点の提言-
【リハビリーション学分野】	
・高田 善栄	左半側空間無視患者のBIT文字抹消試験における「え」と「つ」の文字検出特徴の違い
【放射線・情報科学分野】	
・富里 謙一	バーガーファントムを用いたX線画像の画質評価の自動化と定量化
【臨床検査学分野】	
・西之園 葉	地域未治療高血圧患者の病態における血中マイクロ RNA 値の意義に関する研究
・米根 鉄矢	上部消化管粘膜障害のためのスクリーニング方法の開発
【医療遺伝学分野】	
・福嶋(小池) 佳菜子	若年心臓突然死者に対する遺伝学的剖検へのニーズ:系統的レビューと遺族インタビューによる多角的アプローチ
【診療情報管理・分析学分野】	
・山口 千春	院内がん登録データを用いたICD-11の悪性新生物の項における課題抽出と改善案策定に関する研究
・横井 美加	ICD-11 導入時の問題点と悪性腫瘍にかかる医療費の組織型別分類の提言
【先進的ケア・ネットワーク開発研究分野】	
・鈴木 善雄	幼児期の医療的ケア児を育てる母親のプロダクティビティ特性の探究
・宮元 預羽	介護老人の防止策に関する研究—介護支援専門員の視点に焦点をあてて—
・古川 真介	特別養護老人ホームにおける「利用者本位の介護」の実態
【医療福祉学分野】	
・平野 和美	介護支援専門員による遺族への支援方法に関する研究
・守本 友美	保存期慢性腎臓病患者の意思決定を支える熟達看護師による実践の構造
・山口 倫子	スクールソーシャルワーカーの業務内容およびその関連要因に関する研究

Topics トピックス

IUHWグループにおける注目の出来事や話題を紹介します

日越外交関係樹立50周年記念事業特別プログラム実施 ベトナム医療関係従事者22人来日

本学は3月17日～30日までの14日間の日程で、「日越外交関係樹立50周年記念事業」の特別プログラムの第1陣として、ベトナムの医師や看護師、保健衛生部門の行政関係者ら22人を招待した。この特別プログラムは、2023年9月にベトナム ホーチミン市で開催した「日越外交関係樹立50周年記念 国際医療協力シン

ポジウム」で高木邦格理事長が発表したもので、医師、看護師、リハビリテーション職、学生、行政関係者など医療に携わる方々を50人招待し、将来の日越の医療分野における架け橋となることを期待し計画した。第1陣では22人を受け入れたが、夏には第2陣の受け入れを予定している。



●ウェルカムパーティで記念撮影



●国際医療福祉大学病院での鈴木裕病院長の講義



●栃木地区での視察



●武見厚生労働大臣と高木理事長

栃木・東京での研修を行った特別プログラム前半

3月17日、日本に到着した一行は、翌18日～22日の日程で国際医療福祉大学病院、マロニエ苑、栃の実荘、リハビリーションセンターなど栃木地区的医療福祉施設、大田原キャンパスなどを訪問した。18日には、大田原市相馬憲一市長、矢板市齋藤淳一郎市長、那須塩原市渡邊和明副市长などを招いたウェルカムパーティを開催。鈴木康裕学長は「将来、ベトナムの医療分野をけん引していく皆さんに

とって、このプログラムがその一助となれば」と挨拶した。訪日団のファム・ゴック・タック医科大学のグエン・チョン・ハオ総長が「日本の医療は世界的にも発展しています。このような学びの機会はありがたいです」と感謝を述べた。各施設では医療・福祉の現場を視察するだけでなく、「日本の医療制度・介護保険制度」についての講義も実施するなど、日本の医療について幅広く学ぶ機会となった。

50年先を見据えた日越の架け橋に

3月23日には、東京赤坂キャンパスカフェテリアにて高木理事長、鈴木学長、矢富裕大学院長らが、この日より東京に移動した一行を出迎え、ウェルカムランチを開催した。冒頭、高木理事長は「本学はベトナムとはこれまで約30年間協力してきました。今後50年先も見据えて日越の架け橋になってくれることを期待してこのプログラムを準備しました。ぜひこの機会を有効に活用し勉強していくください」と挨拶し、来賓として急遽お越しいただいた武見敬三厚生労働大臣は「『国際』と名の

ついた大学がたくさんある中、本当の意味で国際的な活動をしているのは、国際医療福祉大学が一番だと思っています。この機会に、国際医療福祉大学の特長をしっかりと見学することは皆さんの将来に役立つと信じています。今回の来日が皆さんにとって有意義なものとなり、日本とベトナムの保健・医学の交流がますます盛んになることを願っています」と挨拶した。

その後、一行は、国際医療福祉大学三田病院、山王病院、山王メディカルセンターを視察し、前半の日程を終えた。

日本で学んだことをベトナムで生かしたい

続く日程では成田キャンパスや国際医療福祉大学成田病院での視察・講義が行われ、3月29日には国際医療福祉大学成田病院内で報告会とさよならパーティが開かれた。報告会では、吉野一郎病院長の「研修最終日でお疲れのことと思いますが、研修の成果や感想をお聞かせいただければと思います。今後も皆様と本学との友好が深まっていくことを願っています」という挨拶でスタートし、参加者全員が研修の成果や感想を述べた。ル・ラン・ヴィ

熱帯病病院副院長は「私は小児科が専門ですが、今回の研修を通じて、私の病院でも小児のリハビリテーションを再開させたいと考えています」と帰國後の決意を語りました。ホーチミン市保健局のル・モン・トゥイ・リン副部長は「2週間大変勉強になりました。特に印象に残ったのは、障害者や高齢者の保健制度です。今後も日本のような先進国で実施されているヘルスケアモデルをホーチミン市で実施できれ

ばと考えています」と話した。また、フジ医療科大学ホ・ティ・トゥイ・チャン部門長は「日本の医療従事者教育が勉強になりました。将来、教育の分野での国際協力がより活発になり、私の専門である看護に関しても一層協力が進められやすいです。今後も国際医療福祉大学と協力関係が深められればと思います。ありがとうございました」と感謝の気持ちを述べた。

報告会後に行われたさよならパーティでは、本学から鈴木学長、赤津晴子副学長、坂元亨宇医学部長などが参加し、訪日団との別れを惜しんだ。鈴木学長は冒頭、「今回ご覧になった日本の医療や保健制度、医学教育・医療従事者の訓練システム、病院運営などについて、ベトナムにとって参考になる点を見極めていただき、帰国後それぞれの分野で生かしてい



●報告会



●さよならパーティ

能登半島地震

本学大学院災害医療分野からもDMAT等派遣

令和6年能登半島地震で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

前号では主に本学附属病院からのDMAT派遣について掲載したが、本学大学院からも保健医療学専攻災害医療分野の大学院生が被災地に赴き、1月から現在まで支援活動を実施中である。派遣メンバーは災害医療分野の修士・博士在籍者および修了生延べ21人で、日本DMAT、災害支援ナース、NPO団体等の派遣元から、被災地医療機関、指定避難所、1.5次避難所等に派遣され被災

地で大学院での学びを基に支援活動を実施している。

また、本学大学院災害医療分野からは、小井土雄一特任教授が、厚生労働省DMAT事務局長として全国の日本DMAT派遣に際し指揮を執り、現地で幅広く支援活動を実施している。

(大学院保健医療学専攻災害医療分野講師 内海清乃)

本学では今後も引き続き復興に向けた支援活動を継続してまいります。



●能登半島地震 避難所での活動の様子



●避難所 仕切り設置の様子
写真提供：ピースウィズ・ジャパン

2023年度 国家資格試験結果

2023年度の国家試験結果が発表された。「医師」は合格率99.2%で全国2位(新卒者・既卒者含む)となった。また、「介護福祉士」で7年連続100%、「保健師」は小田原保健医療学部で10年連続100%を達成したほか、全学部全学科で全国合格率を上回る結果となった。

資 格	キャンパス 合格率		資 格	キャンパス 合格率	
医師	全 国	92.4%	言語 聴覚士	全 国	87.3%
	成 田	99.2% 合格率:全国2位		大田原	95.5% 合格者数:全国1位(63人)
薬剤師	全 国	84.4%		成 田	100% 4年連続
	大田原	97.1% 合格率:全国2位 (受験者数100人以上の大学)		大 川	96.4%
看護師	全 国	93.2%	視能 訓練士	全 国	97.8%
	大田原	98.2%		大田原	100% 合格者数:全国2位(52人)
保健師	成 田	99.1%	診療放射線 技師	全 国	86.3%
	小田原	98.8%		大田原	92.5% 合格者数:全国2位(98人)
理学 療法士	全 国	97.7%		成 田	90.2%
	大田原	100%	臨床検査 技師	全 国	88.0%
	成 田	100% 5年連続		成 田	93.2%
	小田原	100% 10年連続		大 川	97.1%
作業 療法士	全 国	95.2%	社会福祉士	全 国	76.8%
	大田原	100%		大田原	88.5%
	成 田	100%	精神保健 福祉士	全 国	82.5%
	小田原	100%		大田原	97.4% 合格者数:全国2位(37人)
	大 川	100%	介護福祉士	全 国	71.5%
	全 国	91.3%		大田原	100% 7年連続
	大田原	100% 合格者数:全国1位(70人)	臨床工学 技士	全 国	87.0%
	成 田	94.4%		成 田	100% 3年連続
	小田原	100% 5年連続	★厚生労働省資料より本学調べ。本学合格率は2024年3月卒業生の合格率。 全国合格率は全受験者のうち新卒者の合格率。医師は既卒者も含む合格率。		
	大 川	94.1%			